

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2014-05-25

APM news 104

秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館(旧北越銀行宮内支店)



第23回美術館大学 4月19日(土) pm 3:00~4:30/受講者:63名

「『宮内・撰田屋百景』について」

講師:御法川哲郎、大町駿介、
たかだみつみ、秋山孝

〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233



日本各地で町おこしが盛んである。何をテーマに町おこしをするかは各自治体によって異なるが、宮内・撰田屋の魅力は歴史と文化であろう。新潟県長岡市は、県内で唯一焼夷弾投下による空襲被害を受けた町である。その炎は多くの建物を焼失せしめたが、長岡南部の炎は秋山孝ポスター美術館長岡 (APM/旧北越銀行宮内支店) までで止まったという。よって、APM以南には1945年以前に建てられた物が多く残っている。また、宮内の町家にある雁木という、雪国の商店街等で見られる雪よけの屋根も当時からのものである。一方、宮内の南にある撰田屋は醸造の町である。日本酒、味噌、しょうゆといった醸造業者がひとつの町に集まり、醸造文化を醸成させた。撰田屋はAPMよりも南に位置するため、こちらにも歴史ある建物が多く存在する。中でも機那サフラン酒本舗の鍔絵蔵は国指定登録有形文化財である。「宮内・撰田屋百景展」は両地域の魅力を展示によって示したものである。

宮内と撰田屋の魅力をポスターで発信したのは、7人のアーティストである。宮内出身で現在は東京在住の秋山孝氏、埼玉出身で現在は長岡在住の御法川哲郎氏、長岡出身で大学時代から東京で暮らしていたが2012年に長岡へ戻ってきたたかだみつみ氏、東京在住で年に数回長岡を訪れる高橋庸平氏、堀池真美氏、柏大輔氏。そして宮内・撰田屋の魅力を見だし、今展覧会の作品のうち約半数を制作した大町駿介氏。第23回美術館大学では、この7人の中から秋山氏、大町氏、御法川氏、たかだ氏の4人の講師の方々に宮内・撰田屋の特色や作品についての解説をしていただいた。

大町氏は宮内・撰田屋の建物を描くとき、ある時点から建物の正面しか描かなくなった。それは、長岡の町家を描くに当たって正面の図が一番美しく、またそれぞれの建物の個性が分かりやすいと考えたためである。長岡は妻入りの連続した町家であり、屋根と屋根が接する三角の面(妻面)が道路に面する。妻面の上部は漆喰で塗られて木組みを美しく引き立たせる。各建物の妻面は画一的でありながら、それぞれに個性がある。木組みの表情が少しずつ異なるのである。漆喰の白と木組みの黒のコントラストを美しいと感じ、それを引き立たせるために大町氏は正面からの構図を選んだ。

APMは、「1.ポスター作品の展示(アーカイブ)、2.研究、3.教育」を3本の柱に据え、社会貢献を目的に活動している。多摩美術大学大学院のイラストレーション研究グループ院生がAPMを活用し(教育)、その結果、大町氏が「新潟県長岡市宮内・撰田屋地区における研究」を行い(研究)、「宮内・撰田屋百景展」に至った(展示)。「APMの理想とする展示発表である」とは、秋山館長の言葉である。この展示によって両地域の特色や価値がポスターを通して発信された。それはAPMが行う町おこしであり、地域貢献である。(APM公式ホームページより抜粋)